

大都市周辺の町の乳幼児健診の保健指導にかんする調査

園田真人

福岡県粕屋保健所

1. 粕屋郡の乳幼児健診の状況

前調査では北九州市における乳幼児健診の保健指導について報告したが、今回は大都市周辺の町の乳幼児健診について考察する。

粕屋郡は福岡市の周辺にあり、人口約19万人、それぞれ特徴をもった8町によって構成されている。大都市周辺の町は、大都市の行政施策に刺戟され、ベッドタウンとしての性格もち独自の施策も工夫されるという特徴をもっている。

粕屋郡の8町の出生率は、近年低下の傾向があるが、乳児死亡率は著明な変化はない。周産期死亡率は例数が少なく直接比較はできない。

乳幼児健診の受診率は、表1に示すように、4カ月・7カ月では横線で示しているが、乳児一斉健診方式のため不明のところがある。久山町のように高率のところもある。1歳6カ月健診の受診率は、格差がある。その理由は不明であり、今後の研究課題である。

2. 乳幼児健診に対する評価の調査

粕屋郡内の8町の中から、新宮町、粕屋町、志免町、宇美町の4カ所をえらび、1歳6カ月健診に来所したものの222名を調査対象とした。

母親の平均年齢は、新宮29.8±3.91、粕屋29.6±4.12、志免30.9±3.20、宇美29.4±3.90

である。調査方法は、調査用紙を作成し、保育者(ほとんど母親)に、健康状態、家族の状況、乳児期栄養法、離乳、育児知識の導入源、4カ月・7カ月健診の受診と評価、1歳6カ月健診の評価について記入させた。回収率は98%である。

① 現在の健康状態は、健康であるというものは、平均77%であり、下痢、便秘、発熱しやすい、感冒になりやすいというものは23%であり、地域差をみとめる。

② 祖父母との同居の状況は、表2に示すように、平均21.2%が同居している。北九州市の妊婦の調査では同居しているものは25%である。本調査のような大都市周辺の地域でも核家族化が進んでいることがわかる。

③ 母親が職業をもっている比率は、新宮は14.3%、粕屋は17.1%、志免は13.5%、宇美は23.4%であり、内容としては、家業26.5%、常勤47.1%、パート23.5%、その他2.9%である。

④ 母親が職業をもっているものの日中の保育者は、祖母39.5%、保育所など27.9%、母親25.6%であり、母親が職業をもっていないものの93%は母親が保育している。

⑤ 乳児期の栄養方法は、母乳37.8%、混合栄養35.9%、人工栄養26.3%である。離乳が順

調であったというものは、母乳86.1%、混合栄養85.3%、人工栄養67.3%であり人工栄養より母乳栄養がよい経過を示している。

⑥ 離乳知識の導入は書籍35.7%、医療従事者24.2%、母、姉妹13.7%、友人13.2%、その他

表1 健康診査受診率の推移

(数値は%)

区分 年次	4カ月・7カ月健診					1歳6カ月健診				
	昭54	55	56	57	58	昭54	55	56	57	58
宇美	43.7	44.6	52.3	56.0	63.4	84.2	78.3	67.5	82.1	80.0
篠栗	-	-	87.2	90.1	82.9	-	70.0	75.6	81.9	83.5
志免	-	-	-	-	-	-	-	78.2	71.2	79.7
須恵	-	-	-	-	98.7	-	58.4	78.6	63.2	76.4
新宮	-	-	-	-	-	-	70.4	90.1	77.0	95.0
古賀	-	-	29.2	42.6	45.7	-	42.5	42.4	48.1	52.0
久山	94.7	98.5	96.4	98.3	94.8	89.0	97.3	88.9	98.9	94.0
粕屋	84.0	65.0	74.0	71.0	74.6	-	77.6	81.8	88.8	86.8

11.0%の順位であり、書籍、友人、知人から教えられたものは、よくわからないというものがある。

⑦ 母親が職業をもっているグループの離乳開始の時期は4.7±1.68カ月であり、職業をもっていないグループの離乳開始の時期5.1±1.75カ月に比べると、早い傾向がみられる。

⑧ 育児で困っているというものは17.6%であり、夜泣く、ゆびしゃぶり、食事のしつけ発育について、排尿、せんそくなどが大部分をしめており、相談するものは、母親、友人というものが多い。

⑨ 本調査の4カ月・7カ月健診受診率は、表1の率よりも高い。母親の職業があるものとなないものによって受診率を比較すると、新宮、粕屋、宇美では差はないが、志免では、職業があるものの受診率は28.6%、ないものでは、56.5%であり差をみとめる。この原因については、今後の研究課題である。

⑩ 4カ月・7カ月健診に対する母親の評価は、表3に示すように、地域によって差がみられる。平均すると、よいというものは33.9%である。不満足の原因は、簡単すぎる、待たされるというのがある。注目されるのは、表4に

示すように、育児で困っていることがあるグループは21.0%がよかったといい、困っていることがないグループは41.2%がよかったと評価していることである。

⑪ 1歳6カ月健診の周知方法は、どの地域も町だより、個人通知を行っている。本調査では、町だより54.4%、個人通知44.4%と意識している。

⑫ 1歳6カ月健診の評価は、表5に示すように、4カ月・7カ月健診より評価はよいが、粕屋は75.8%、宇美は35.9%がよかったといい地域差がある。その要因として、健診の場所、流れ、人員配置、指導内容などが考えられるので、さらに検討を加えたい。4カ月・7カ月健診で評価のよいグループほど、1歳6カ月健診の評価がよいことは、注目される。

(小括)

大都市周辺の町の乳幼児健診は、次第に充実しているが、反省し検討を要する点もある。大都市と同じように、核家族化がみられ、その対応も大切である。本調査の健診に対する母親の評価は、かならずしも正しい評価とはいえないにしても、母親の意識を知ることができて、今後の参考になる。

表2 祖父母との同居 ()は百分率%

町名	状況	同居あり	同居なし	計
新宮		6 (14.8)	36 (85.7)	42 (100.0)
粕屋		14 (22.2)	49 (77.8)	43 (100.0)
志免		8 (15.1)	45 (84.9)	53 (100.0)
宇美		19 (29.7)	45 (70.3)	64 (100.0)
計・平均		47 (21.2)	175 (78.8)	222 (100.0)

表3 4カ月・7カ月健診の評価 ()は百分率%

町名	評価	よかった	普通	不満足	答なし	計
新宮		5 (15.2)	27 (81.8)	0 (0.0)	1 (3.0)	33 (100.0)
粕屋		26 (52.0)	20 (40.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	50 (100.0)
志免		18 (34.6)	16 (30.8)	1 (1.9)	17 (32.7)	52 (100.0)
宇美		15 (27.8)	35 (64.8)	1 (1.8)	3 (5.6)	54 (100.0)
平均		(33.9)	(51.8)	(2.1)	(12.2)	(100.0)

表4 育児で困っていることと健診の評価 ()は百分率%

評価	育児	困っていることなし	困っていることあり
よかった		56 (41.2)	8 (21.0)
普通		59 (43.4)	25 (65.8)
不満足		2 (1.5)	2 (5.2)
答なし		19 (14.0)	3 (8.0)
計		136 (100.0)	38 (100.0)

表5 1歳6カ月健診の評価 ()は百分率%

町名	評価	よかった	普通	不満足	答なし	計
新宮		18 (45.0)	17 (42.5)	1 (2.5)	4 (10.0)	40 (100.0)
粕屋		47 (75.8)	14 (25.6)	1 (1.6)	0 (0.0)	62 (100.0)
志免		31 (59.6)	20 (38.5)	0 (0.0)	1 (1.9)	52 (100.0)
宇美		23 (35.9)	39 (60.9)	0 (0.0)	2 (3.1)	64 (100.0)
平均		(54.6)	(41.3)	(0.9)	(3.2)	(100.0)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 粕屋郡の乳幼児健診の状況

前調査では北九州市における乳幼児健診の保健指導について報告したが、今回は大都市周辺の町の乳幼児健診について考察する。

粕屋郡は福岡市の周辺にあり、人口約 19 万人、それぞれ特徴をもった 8 町によって構成されている。大都市周辺の町は、大都市の行政施策に刺戟され、ベッドタウンとしての性格をもち独自の施策も工夫されるという特徴をもっている。

粕屋郡の 8 町の出生率は、近年低下の傾向があるが、乳児死亡率は著明な変化はない。周産期死亡率は例数が少なく直接比較はできない。乳幼児健診の受診率は、表 1 に示すように、4 カ月、7 カ月では横線で示しているが、乳児一斉健診方式のため不明のところがある。久山町のように高率のところもある。1 歳 6 カ月健診の受診率は、格差がある。その理由は不明であり、今後の研究課題である。